C－36　婦人服裏の体温調節に関する研究 ― 材質の相違について ―

三菱レイヨン　○須藤武子　奈良女大家政　水桜サワ子

目的　一般にニット製品は布製品よりも着心地が良いといわれているが、果してそうであろうか？　着心地の良さには種々の要因が考えられるが、私達はその一指標として，体温調節作用の上から快適さの相違を知ろうと思い体温調節に関する着用実験をおこなった。

方法　成人女子2名につき被服の型・色・重ね方を同一にして，材質のみ異なる実験衣服―ここではニットと布―を着用して，21℃（向暖期・向寒期）50％RHの室内自然環境にて，椅座安静にし，皮膚表面温・衣服表面温・舌下温・呼気採集ならびに呼気分析・体重・衣服内湿度を測定した。

結果　①いづれの衣服も皮膚表面温は躯幹部で高く，四肢部で低い。四肢部のなかでも身体の中心より離れるにつれ，皮膚表面温は低い。又，実験中時間の経過にしたがって下腿の皮膚温は下降の傾向を示した。②衣服表面温は躯幹部で低く，四肢部で高い。このことは躯幹部がよく保温されていると云えよう。以上①②は向暖期・向寒期ともニットと布との差は認められなかった。③実験中，体重減は向暖期向寒期ともニットの方が多かった。④クロ値は向暖期では布が、向寒期ではニットが大であった。⑤衣服内湿度については布よりもニットの方が水蒸気透過が良好の傾向がみられたが明確なことは今後の研究に待つことが多い。

以上，今回の実験の結論として，材質のみ異なる衣服は、体温調節にさほど顕著な影響を及ぼさないといえる。